

保護者様

京都市立洛央小学校
校長 鈴木 宏紀

令和6年度学校評価（後半）を振り返って

学校評価にご協力ありがとうございました。

令和6年度学校評価（後半）の集計結果をお知らせします。先日は保護者の皆様、児童（低、高学年別）、教職員による評価（振り返り）のアンケート（インターネットを利用した回答形式）にご協力いただき、ありがとうございました。

洛央小学校では、「人を大切に、心ゆたかに たくましく生き抜いていく子～協働的な問題解決力を育てる～」を教育目標とし、教育活動を進めています。1学期の時と同じく、今年度は昨年度と質問内容を一部変更して実施しています。今回の集計結果を真摯に受け止め、3学期や来年度以降の教育活動の改善に繋げていくように活用させていただきたいと考えています。

①子どもは、自分で（自分たちで）考えて解決しようとしていますか。（保護者）

新しいことやわからないことがあったとき、まず自分で（自分たちで）考えようとしていますか。（児童）

子どもたちが自分で（自分たちで）考えて解決するような取組をしている。（教職員）

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	22%	67%	10%	1%
児童（高学年）	43%	45%	9%	3%
児童（低学年）	63%	27%	8%	2%
教職員	29%	69%	2%	0%

②子どもは、友達と協力できていますか。（保護者）

いろいろな活動で、友達と協力して取り組めていますか。（児童）

子どもたちが友達と協力できるように取り組んでいる。（教職員）

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	29%	65%	5%	1%
児童（高学年）	56%	35%	8%	1%
児童（低学年）	61%	30%	8%	1%
教職員	39%	61%	0%	0%

③子どもは、進んで体を動かしたり運動したりしていますか。（保護者）

自分から進んで体を動かしたり運動をしたりしていますか。（児童）

子どもたちが進んで体を動かしたり運動したりするように取り組んでいる。（教職員）

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	40%	41%	15%	4%
児童（高学年）	51%	24%	19%	6%
児童（低学年）	67%	21%	8%	4%
教職員	30%	70%	0%	0%

④家庭では、子どもが進んで学習に向かえるように声かけなどをしていますか。(保護者)

自分から進んで学習に取り組むことができましたか。(児童)

子どもたちが進んで学習に向かえるように取り組んでいる。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	30%	57%	11%	2%
児童（高学年）	40%	39%	17%	4%
児童（低学年）	54%	36%	6%	4%
教職員	29%	71%	0%	0%

⑤家庭では、子どもが自分や人を大切にできるように声かけなどをしていますか。(保護者)

自分や友達を大切にできましたか。(児童)

子どもたちの自分や人を大切にする心が育つように取り組んでいる。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	43%	54%	3%	0%
児童（高学年）	66%	29%	4%	1%
児童（低学年）	74%	23%	3%	0%
教職員	50%	50%	0%	0%

⑥家庭では、子どもたちの健康を意識して生活リズムを整えるようにしていますか。(保護者)

健康に注意して生活できていますか。(児童)

子どもたちの健康管理について取り組んでいる。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	38%	56%	6%	0%
児童（高学年）	43%	40%	13%	4%
児童（低学年）	67%	26%	5%	2%
教職員	38%	55%	7%	0%

⑦学校（学級）は、子どもたちが最後まであきらめずに、勉強や課題に取り組むことができるよう支援していますか。(保護者)

最後まであきらめずに、勉強や課題に取り組むことができていますか。(児童)

子どもたちが最後まであきらめずに、勉強や課題に取り組むことができるよう支援している。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	30%	66%	4%	0%
児童（高学年）	45%	34%	17%	4%
児童（低学年）	69%	22%	7%	2%
教職員	33%	67%	0%	0%

⑧学校（学級）は、子どもたちが自分から進んでいさつができるように熱心に取り組んでいますか。(保護者)

自分から進んでいさつをすることができましたか。(児童)

子どもたちが自分から進んでいさつができるように取り組んでいる。(教職員)

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	33%	61%	6%	0%
児童（高学年）	47%	32%	14%	7%
児童（低学年）	65%	26%	7%	2%
教職員	43%	50%	7%	0%

⑨学校（学級）は、子どもたちが安全に過ごせるように安全指導（事故・事件・災害など）に熱心に取り組んでいますか。（保護者）

事故や事件などにあわないように安全に生活できていますか。（児童）

子どもたちが安全に過ごせるように安全指導（事故・事件・災害など）に取り組んでいる。（教職員）

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	33%	63%	4%	0%
児童（高学年）	70%	23%	7%	0%
児童（低学年）	74%	22%	4%	0%
教職員	67%	33%	0%	0%

⑩学校（学級）は、子どものよいところを見つけたり、伸ばしたりしていますか。（保護者）

自分にはよいところがあると思いますか。（児童）

子どものよいところを見つけたり、伸ばしたりできるように取り組んでいる。（教職員）

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	32%	60%	7%	1%
児童（高学年）	51%	24%	17%	8%
児童（低学年）	72%	20%	6%	2%
教職員	58%	42%	0%	0%

⑪学校（担任）は、子どもや保護者の質問や相談に熱心に応じていますか。（保護者）

困ったことがあるとき、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。（児童）

子どもや保護者の質問や相談に熱心に応じている。（教職員）

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	47%	48%	4%	1%
児童（高学年）	40%	32%	18%	10%
児童（低学年）	58%	28%	11%	3%
教職員	43%	57%	0%	0%

⑫子どもたちは、明日の学校を楽しみにしていますか。（保護者）

明日の学校を楽しみにしていますか。（児童）

子どもたちが明日の学校を楽しみになるように取り組んでいる。（教職員）

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
保護者	40%	46%	10%	4%
児童（高学年）	55%	25%	9%	11%
児童（低学年）	72%	20%	5%	3%
教職員	48%	48%	4%	0%



【学校と家庭の連携について】

設問⑤「自分や友達を大切にできましたか。」に関して、前期と同じく、後期も約 90%以上の子どもが肯定的に回答しています。また、保護者や教職員に関しても肯定的な回答が約 95%以上であり、学校と家庭が人を大切にすることについて、日ごろから子どもたちへの声かけや取組を進めている結果が表れています。設問②「いろいろな活動で、友達と協力して取り組めていますか。」についても約 90%以上の子どもが肯定的に回答しており、人を大切にするという意識の高まりが、友達と協力するという具体的な行動につながっていることがわかります。学校では授業中のグループ活動や、休み時間での様子、当番活動などにおいて、優しい声をかけたり、関わり方を工夫してよりよい方向に協力して進めようとしたりする児童の姿がたくさん見られます。また、たてわり活動のような異年齢と関わる活動では、高学年児童を中心に、とても温かいふれあいをする様子が多々ありました。ただ、他者との関わり合いの中で、意見がくい違うこともあります。対立する意見をお互いに真摯に受け止め合い、よりよい方向を模索していくことが、社会で集団を築いていく上で大切です。いろんな意見を出し合ったり受け止めたりした先にある、人との協力の姿勢を今後も子どもたちに付けていきたいと思っています。

設問⑦「最後まであきらめずに、勉強や課題に取り組むことができていますか。」に関して、前期と比べると高学年の子どもの否定的な回答が約 4%増える結果となりました。一方で、学校と保護者の結果からは、子どもたちへの支援に対しては肯定的な回答がわずかですが増えています。同様に、設問①「新しいことやわからないことがあったとき、まず自分で（自分たちで）考えようとしている。」ことに関して、前期と比べると低学年・高学年どちらの子どもも否定的な回答がごくわずか増える結果となりました。子どもが最後まであきらめずに、勉強や課題に取り組むことができるよう私たち大人がしている支援が、もしかしたら子どもの自ら考えたり取り組んだりする意欲や主体性を阻害しているのかもしれません。学校では、本校の学校目標の中に『たくましく生き抜いていく子』、『問題解決力を育てる』を掲げ、日々の教育活動に取り組んでいます。生活科や総合的な学習の時間を中心に、校外学習に出かけ、現地の本物の様子を確認したり、実際に携わっておられる方にインタビューをしたりして、疑問を解決する姿も見られました。今後さらに、知識や技能だけでなく、自らが問い合わせを立てたり、自分たちで調べたりする活動を設定し、1時間、または数時間かけて友達と協力しながら解決していくという経験を通して、子どもたちの意欲や主体性を育てていきたいと思います。



【学校での取組について】

設問⑩「自分にはよいところがあると思いますか。」に関して、高学年の「そう思わない」の回答は前期に比べ8%減少しましたが、全体としては約 25%が否定的な回答をしています。また、保護者の「学校（学級）は、子どものよいところを見つけたり、伸ばしたりしていますか。」に関しても、前期に比べてごくわずかですが否定的な回答が増えています。学校では、子どもたちのよさを授業や学校生活で見つけて励ましたり、ノートや成果物で表したものにはげましのコメントを残したりして子どもたちに返したり、学校行事等で子ども一人一人の活躍の場を保障したりするなどの取組を進めてまいりましたが、子どもを適切に見取ってよさを個々に伝えていたのか、また学校行事等は本当に一人一人にとって自信をもって活躍できる場であったのか、などについて検討し、子ども一人一人の個性や特徴が生かされる取組に変えていく必要があるのかもしれません。このように子ども一人一人のよさを見つけたり伸ばしたりする取組を進める中で、設問⑪「困ったことがあるとき、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」についてもより肯定的な回答が増えていくと感じています。私たちが子どもにとって自分のよさを認めてくれる一番身近な大人であるならば、子どもたちも安心して、信用して、私たちに心を開いてくれると思います。子どもたちとのよりよい関係性を築いていけるよう、取組を進めてまいります。

設問⑫「明日の学校を楽しみにしていますか。」に関しては高学年児童で否定的な回答をしていた割合が、前期約 24%から後期約 20%へと減少が見られました。高学年の中でも、自信を持ちきれない子どもたちが少しづつ自分のよさを見つめようとしつつあることが伺えました。また、明日の学校での学習での学びや友達とのかかわりに楽しみを感じていることがわかりました。2学期にも普段の学習を活用した校外学習やゲストティーチャーとの関わり、学校行事等がありました。それらの活動では計画を立てて準備をしたり、練習をしたりして当日をむかえ、学びの深まりを感じることができたのかもしれません。今後も学校で伸ばせる力、友達との関わり合い、魅力ある授業を大切にして、日々の取組を工夫していきたいと思います。